

## 展示から伝える「深海掘削からわかる地球のしくみ」

## Communicating through an exhibition; System of the Earth Revealed by Deep Sea Drilling

# 新井 真由美 [1]; 竹内 恵 [2]

# Mayumi Arai[1]; Kei Takeuchi[2]

[1] 日本科学未来館; [2] 日本科学未来館

[1] Miraikan; [2] National Museum of Emerging Science and Innovation

<http://www.miraikan.jst.go.jp/>

日本科学未来館では、最先端の科学技術やその領域で活躍する人物に焦点をあて、様々な手法（展示物、展覧会、出版物、Web、講演会、実験など）で最新科学の面白さを世界へ情報発信している。そのため、常に新しい研究の動向にアンテナをはっている。

2003年、地球科学や生命科学の研究領域をつなぐ壮大なプロジェクトである統合国際深海掘削計画（IODP）が発足した。IODPで中核となる掘削船は、日本が開発した地球深部探査船「ちきゅう」であり、この船の誕生で日本が深海掘削研究の中で、世界をリードする時代が到来した。このことに日本科学未来館は注目し、展示の構想から完成まで約2年の歳月をかけ、深海掘削をテーマとした展示『深海掘削からわかる地球のしくみ』を開発した。宇宙開発は米国が世界をリードしているが、日本は海洋掘削の巨大プロジェクトで世界をリードしようとしているということ、そして「ちきゅう」の始動が2007年であることから、次代を担う若者の参加が大いに期待される研究であるということも、世界に訴えたいと考えた。

本展示は、日本科学未来館の常設展示の1つ「地球環境とフロンティア」をテーマとした最新の研究の1つとして開発した（2006年3月）。地震や断層、気候変化、生命の誕生といった同じ地球科学に関連した研究ではあってもお互いの研究同士の関連性がよくわからないといった声を聞く。しかしこの深海掘削研究は、その問題点を解消するべく、地球科学や生命科学の境界領域を扱う分野であった。地球を1つのシステムとして理解できるように、本展示では宇宙から地球の内部までつなぐ見せ方に工夫を凝らした。そして、深海掘削で得られる「コア試料」には、地球の進化だけでなく、未来の地球環境を知る多くのヒントが含まれていること、また地震発生のしくみや地下生物圏の生態解明など多くの成果が期待されているため、この研究の魅力を多くの人々へ伝えたいと考え展示開発に注力をそそいだ。

研究の全体像が一目でわかる導入ゾーンや「地球を1つのシステムとして理解する」という研究の最終目標を体感できるような展示空間の実現。掘削船としての魅力の紹介や様々な職種の乗組員が一丸となって1つの大きな目的を達成するということを表現したメッセージコーナーでは、中高生の参加を呼びかけている。本発表では、この分野の初心者でも自然と興味を示し親しめるような表現手法を試みたことを展示開発の事例で紹介し、ミュージアムが最先端科学の情報発信の場として取り組んでいることを言及する。なお、展示製作にあたり海洋研究開発機構の多大なるご協力を頂いた。この場を借りて感謝申し上げます。